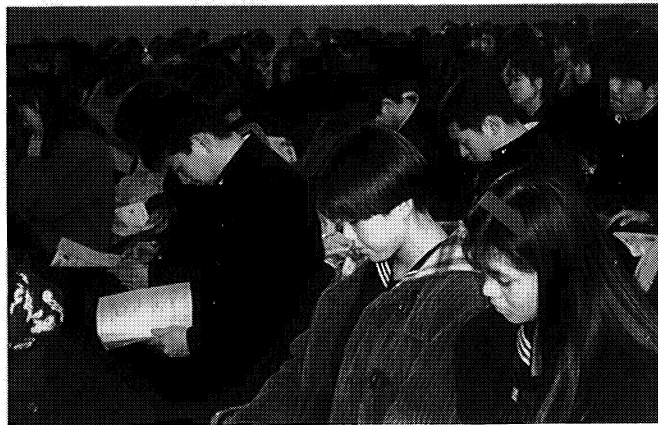


事業の名称	生命と健康（エイズ）に関する学校開放講座				
対象	地域住民、高等学校生徒、専修学校	受講者	1,928人（男941人・女987人）		
実施場所	講座開設高等学校及び専修学校	学習テーマ	エイズの現状と予防		
実施団体	福島県教育委員会、講座開設高等学校又は専修学校				
実施期間	平成5年1月20日～2月22日				
開設学校名	外部講師名・所属職名	実施時間数	受講対象	受講者数	実施方法
県立安達高等学校	石下恭子：二本松保健所長	1回 計2時間	生徒・地域住民	370	講義・テキスト配布
県立福島南高等学校	上野文彌：福島保健所長	2回 計4時間	生徒他	55	講義・テキスト配布・スライド使用
	馬場昌範：福島医大助教授		教職員他	47	
県立長沼高等学校	鈴木美保子：須賀川保健所長	1回 計2時間	生徒・地域住民	367	講義・テキスト配布
1 県立福島工業高等学校	倉本孝雄：あさひ銀行保健管理センター医師	2回 計4時間	地域住民	71	講義・テキスト配布・スライド使用
			教職員他	41	
白輪看護専門学校	星源之助：総合会津中央病院長（医師）	2回 計4時間	地域住民	28 26	講義・テキスト配布・ビデオ視聴
県立南会津高等学校	鈴木洋子：田島保健所保健婦長	2回 計4時間	生徒他	71 69	講義・テキスト配布・ビデオ視聴
県立小高商業高等学校	菅野クニ：原町保健所保健技師 佐藤ひさ子：原町保健所医療技師	2回 計4時間	生徒	213	講義・テキスト配布・ビデオ視聴
			地域住民	178	
県立勿来工業高等学校	矢野直樹：矢野内科胃腸科医師 樋渡克英：磐城共立病院医師	2回 計4時間	生徒他	355	講義・テキスト配布・ビデオ視聴
			教職員他	37	

① この講座を通じ、受講者にとってエイズを身近な問題としてとらえるきっかけとなり、さらには、テレビ、新聞等で大きく報道されたため、エイズに関する県民の関心が高まった。

② 受講生のエイズへの関心は高く、多くの質問が出され、エイズについての誤解や、偏見、差別をなくしエイズに関する正しい知識の普及を図ることができた。

（受講者数 約二千人）



エイズの現状と予防の講義（県立安達高等学校）

- ③ 受講生の実態を踏まえながら講義内容等について講座開設学校と講師間で協議して進めたため、効果のある事業となった。
- ④ 特に次の点について大きな成果をおさめることができた。
- ・ エイズの概念、感染経路、予防方法について正しい知識の普及啓発を図ることができた。
  - ・ エイズ感染者への理解と思いやりの態度を養うとともに、エイズ問題は、自分自身の問題でもあるし、現代的課題を考える上での糸口となった。

### 3 おわりに

一般的に、人々の学習への関心の現状を見ると、身近な問題や実益を伴う問題についての関心は高いが、比較的自分と空間的・時間的に遠い問題には、余り関心を示さない傾向がみられます。

特に、現代的課題に関する講座等については、大学や公民館等社会教育施設において、取り上げられておりますが、講座等の学習内容の全体的な傾向としては、一般的な教養・レクリエーション関係のものが多く、現代的課題のような社会性、公共性のある学習課題への取り組みは必ずしも十分とは言えないのが現状ではないかと思われ

ます。

しかし、生命と健康（エイズ）に関する学校開放講座の受講生に見られるように、現代的課題の本質を理解することができれば、受講生の興味・関心は高まり、さらに他の現代的課題へと興味注がれることになることでしょう。

今後とも、多様な現代的課題について人々の学習意欲を高める魅力あるプログラムと指導方法を研究開発し、県が主催する生涯学習県民講座や各種指導者研修会、あるいは生涯学習関連機関や関係部局等の事業との連携・強化に努め、学習機会の提供を図る努力をして参りたいと考えております。